00：00：00

小池：じゃあ、これで発表させていただきます。元々国際脳というのは何かというと、戦略的国際脳科学推進プログラムというAMEDの研究プロジェクトの一つになっています。ホームページを見ていただければと思うのですけれども、プロジェクトの特徴としては国際脳のプロトコルというのが、これは林先生を中心としたご尽力なのですけれども、作られて、ヒューマンコネクトームやABCD研究など、あとはバイオバンク、そちら側の、UKバイオバンクやそういったほうの研究プロジェクトと対応できるようにするというのが特徴になっています。

　元々日本というのは、結構MRIの研究では、共同研究が他の国に比べて盛んに行われていると個人的には思っているのですけれども、今回はもう最初のプロジェクトの開始から共同研究ベースで行っていて、プロトコルの策定からデータの取り扱いや、他の研究者がどういうふうに参画するかまでが、最初から組まれています。

　今回のチュートリアルはその一環として、こういった新たな共同研究に参画して貢献していただけるような研究者を支援しようというのが目的になっていますので、筑波大の根本先生などによくやっていただいている、ABiSのチュートリアルとは少し様相が違っています。

　研究体制としてはこうなっていまして、今回のチュートリアルは、このグループの1の中に、1の1と1の2があるのですけれども、1の2でやっております。昨年度は、これもぎりぎりでした、コロナの前に東大の駒場キャンパスでこういった50人程度の参加をいただいて、最初に初回をやらせていただいて、その時はまだパイプラインの話などがかなり最初のさわりのところしかできなかったので、今回はだいぶ成果というか、準備的なデータや解析のプランというのも上がってきましたので、そちらに特化して今回は進めたいと思っています。

　今回ですけれども、まずは最初のほうで、既存の国際脳の前にプロトコルが、一応は共通のものがあって、ご存じの方が多いと思うのですが、脳プロ、革新脳プロトコルというのがあって、それのデータが実はもうATRで公開されているのですが、そういったものを利活用していただくためのお話があります。

　その背景となるTraveling Subjectのデータなどをどうやって取り扱えばいいかなど、あとは共同研究で機種が違うのだけれども、そういうCombat法というものを用いると、ある程度は補正できるといったところを今回は紹介させていただいて、後半は今やっている国際脳の話をして、最後は実際のデータの共有方法や利用方法辺りまで話ができればと思っています。

　目的はフライヤーの裏面に書かせていただいたように、ある程度は一通りできた、MRIの研究をやったことがあるような方というのを対象にしています。こういった方以外にも別に参加していただいてよくて、別に全く付いていけないことはないと思うので、将来的にやりたい方もぜひ参加いただければと思っています。

　今回は期せずしてウェブになってしまいましたので、利点としては参加者の制限が500名まで緩和できます。500名を超えたらZoomにウェビナーという機能があって、それを一応は申し込んでいたのですけれども、そこまで至らずに、大体160人の登録をいただきました。

　あとは、持ち込みのパソコンで今まではチュートリアルをやることが多かったのですけれども、そうすると、どうしてもそのパソコンでは解析しないので、なかなかまたもう一回解析整備をしなければいけないという時間的な制約があったのですけれども、皆さんがこれを今Zoomでやっていて、職場のデスクトップのPCやサーバーのPCなどに接続しながらチュートリアルを受けることができるので、この点は利点かと思います。

00：04：54

　あとは基本的にAMEDのプロジェクトでやらせていただいているので、こういった発表自体はAMEDの国際脳の内部サイトで完全に公開されて、一部などと書いてありますけれども、大部分は後日に切り取って一般的に公開したいと思っていますので、どうしてもスライドなどの版権の問題があって、そのまま公開できない部分もあるので、その辺をちょっと精査しないといけません。

　欠点としてはチューターがその辺をふらふらと歩いていて、手を挙げたら来てくれるわけではないので、付いてこられない人は付いてこられないままに終わってしまうという可能性が高いです。

　ただもちろん、ビデオを撮ってもう一回見ていただくような機会をこちらで用意したいというのと、あとはチャット機能というのがあって、チャット機能で簡単な質問から、かなりアドバンスな質問まで混じっていいと思うのですけれども、ぜひ利用していただければ、親切な参加者が答えてくれると思います。僕もたまに答えるかもしれません。

　そんな感じで進めたいと思いますので、皆さんもご協力をお願いいたします。多かった質問は後日にまとめて、それもホームページに上げようと思いますので、ぜひ活発なご議論をお願いできればと思います。

　今回の参加者なのですけれども、こんな感じでやらせてもらっていて、大体は国際脳の関連の人が4割ぐらいで、それ以外のAMED、核心脳や脳プロの参加者の方が大体2割です。あとはそれには関係ないとおっしゃっている方が4割ぐらいです。多分上の人が実は関係していて、これは2～3割になるのではないかと思うのですけれども、こんな感じでいます。

　学生と研究員が4割ぐらいで、教員や医療職が半分ぐらいです。それ以外の方が1割ぐらいという形です。解析経験はかなりきれいに分かれてしまって、未経験と1～3年の初学者の方か、あとは中級者や上級者がこんな感じで5等分された感じになっています。

　今回の国際脳に関する内容に関しては、後半の話です。ある程度はこちらの日本語のサイトと、あとはマニュスクリプトです。バイオアーカイブも出ていますので、ぜひご覧いただければ幸いです。以上になります。何か簡単なご質問などがあれば受けますが、なければそのまま田中先生のほうに行きたいと思いますけれども、よろしいですか、大丈夫ですか。では田中先生、よろしくお願いします。

00：07：54